

学校お助け隊通信

第4号

先生たちに“ちょっとほっとする”支援を届けます

発行 国際心理科学研究所
令和7年7月

特集 キャリア教育は「今を生きる力」を育むもの

近年、「キャリア教育」という言葉が学校現場でもよく聞かれるようになってきました。「キャリア」と聞くと、将来の進路や職業のことと捉えられがちですが、実はそれだけではありません。

キャリア教育とは、子どもたちが

「自分らしく生きる力」

「社会の中で役割を果たす力」

を育むことを目指す教育です。これは、文部科学省が打ち出す「生きる力」の理念とも深くつながっています。

背景には、社会の変化があります。急速に進むデジタル化や少子高齢化、不確実で予測困難な時代（VUCA 時代）において、子どもたちは「正解のない問い」に向き合い、自分の軸を持って人生を選び取っていくことが求められています。

また、不登校や自己肯定感の低さ、進路選択の不安など、子どもたちが抱える課題は年々多様化・複雑化しています。そうした中で、キャリア教育は単なる進路指導ではなく、子ども一人ひとりの「今」と「未来」に寄り添う支援としてますます重要になっています。

「どんな仕事に就きたいか」ではなく、

「どんな自分でありたいか」

「どんなふうに社会と関わって生きていきたいか」

学校キャリア教育は、こうした問いかけを通じて、子どもたちの自分を見つめる力や他者と協働する力を育む営みです。

学校お助け隊としても、こうした視点をもとに、子どもたちの未来をともにつくる伴走者でありたいと考えています。



コラム 心理の窓

『夏休みを迎えるということ』

夏休みは、子どもたちが学校という集団生活から少し離れ、自分のペースで過ごせる特別な時間です。のびのびと過ごす子もいれば、逆に不安や孤独を感じる子もいます。

普段は見えにくい心の声が、ふとした「変化」や「沈黙」となって表れることもあります。

大切なのは、その小さなサインに気づこうとするまなざしです。

私たち大人自身も、自分の心に目を向け、整える時間になりますように。

立ち止まることが、次の一歩をやさしく後押ししてくれるかもしれません。

お知らせ

中学生向け

「みらいにつながるじぶんワーク」

「自分を知る」「未来を描く」をテーマに、対話やワークを通じて、一人ひとりが将来に関心が持てるよう工夫したプログラムです。

ご関心のある方は、お気軽にお問い合わせください。

